

1 研究主題

確かな学力を身につけ、共に高め合う子の育成 ～身に付けた基礎的・基本的な力を生かし、考えを深める算数科の授業をめざして～

2 研究主題について

(1) 本校の教育とこれまでの研究

本校は、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成をめざし『心もからだも健康な子』を学校教育目標に掲げ、教科指導を中心とした教育研究に努めてきました。

本校児童は明るく素直で元気がよく、何事にも積極的に取り組むことができる子が多いと言えます。しかし、そうした「自分の思いを表現したい」という児童のよさが授業の中で十分生かされていない部分もありました。また算数科においては諸検査の結果等からもつまずきが見られたため、基礎基本の定着を図った上で表現力の向上をめざす研究が必要であると考えました。

そこで、23年度からは、『確かな力を身につけ、生き生きと学び合う子どもの育成 ～算数科における基礎・基本の定着を図る学習形態・指導方法の工夫～』の研究主題のもと、算数科を窓口とした研究に取り組んできました。

基礎・基本の定着に関わっては、算数的活動を通して、体験的活動や具体物の操作を工夫したり学年の発達段階に応じて、表現したり説明したりする学習活動を積極的に授業に取り入れてきました。また、正確に書き表したり、自分の考えをまとめたりするノートを作る活動も取り入れました。その結果、基礎基本の定着に効果が表れ、表現力の向上につながるという成果がみられました。

また、TT活用やグループ学習、習熟度別学習など学習形態や指導方法の工夫や評価活動は、児童一人一人の理解度を把握した上で学習を保障することができ、基礎基本の定着を図る手立ての一つとなることを検証することができました。

(2) 研究主題設定

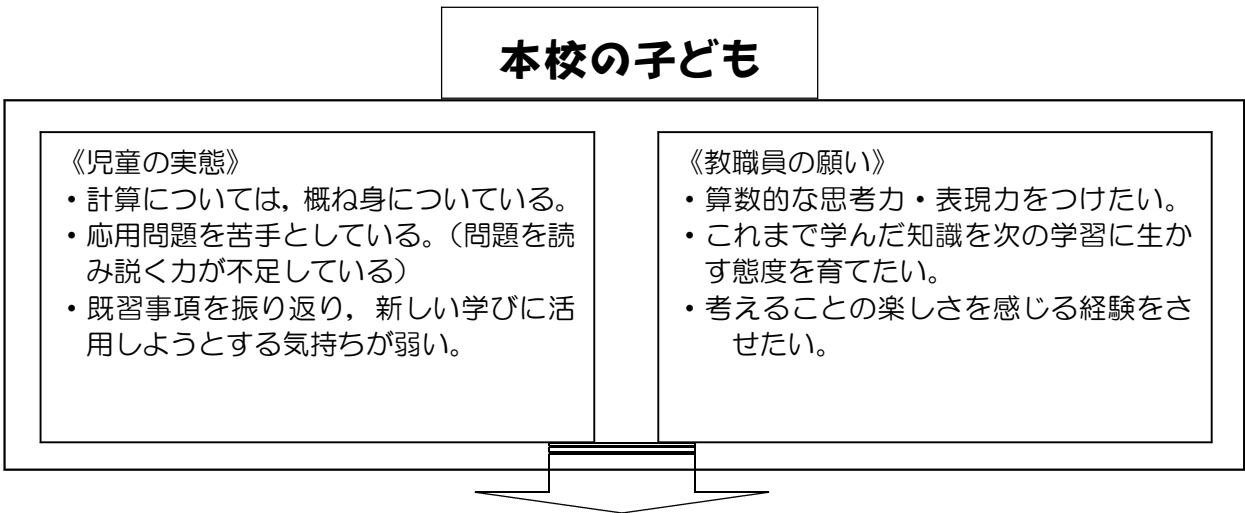
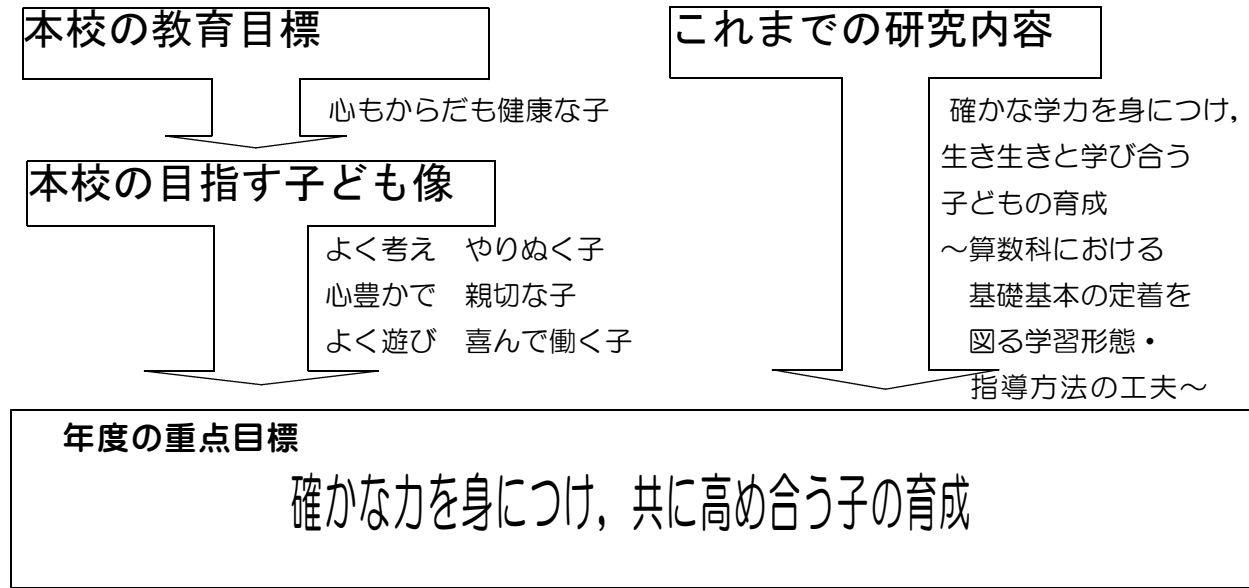
25年度からの研究では、本校が24年度まで取り組んできた研究を生かし、算数的活動をより充実したものにするとともに、基礎的・基本的な知識や技能を生かして練り合うことで、思考力、判断力、表現力を高める研究に取り組むこととしました。

算数的活動の充実、子どもの既習事項の理解度を把握し授業で生かすことは、児童がどこでつまずきやすいかを考慮した授業展開をすることができるため、基本的な学力の定着を図ることができると考えます。また、現行の学習指導要領では、基礎的・基本的な知識や技能を習得させるとともに、これらを活用して思考力、判断力、表現力を育むことが重視されています。本校の研究では、習得と活用を切り離して考えるのではなく学んだことを活用することで、習得が確かなものとなり、習得を確かなものにする活動の中で、活用も身につくと考えています。つまり、基礎・基本の定着を図るために、習得を確かなものにする学習を繰り返すことによって活用の力がつき、活用することによって基礎・基本の定着を図ることもできるということです。

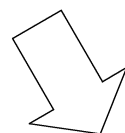
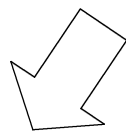
培ってきた基礎的・基本的な力や既習事項をもとに自分の考えをもち、友達の考えと比べて練り合うことでさらに自分の考えを深めたり広げたりすることが本校の児童にとって必要な学習であると考えました。

このようなことから本校では、昨年度までの研究を生かして、研究主題を「確かな学力を身につけ、共に高め合う子の育成」副主題を「身につけた基礎的・基本的な力を生かし、考えを深める算数科の授業をめざして」と設定しました。

3 研究で目指す子ども像（児童につけたい力）



確かな学力を身につけ、共に高め合う子の育成
～身に付けた基礎的基本的な力を生かして考えを深める算数科の授業をめざして～



数量や図形など、生活や学習の基礎となる基礎的・基本的な知識・技能の習得

これまでの知識を振り返り、次の学びにつなげ生かそうとする態度

4 研究仮説

【仮説1】

授業のねらいを明確にし、算数的活動の充実やノート指導、系統性を重視した展開を工夫することによって、基礎・基本の定着を図ることができるだろう。

【仮説2】

児童の実態を捉え、既習事項を活用して考えを深める場面を設定することによって、筋道を立てて論理的に考える力を養うことができるだろう。

5 研究内容

【研究内容1】(1年次)

確かな学力を身につけるため

①算数的活動の充実

算数の言語（数、式、図、グラフ、表など含む）を使い、自分の考えをもって表現（説明）する場の設定

②ノート指導（板書の工夫）

子どもたちが「書いて考える」ことができ、学習した内容がはっきりわかるノート作りのあり方。

③系統性を重視した授業作り

レディネステストなどによって、子どもがどこでつまずいているかを適切に把握し、授業の中で前に学んだことを振り返ることを意識した授業展開の工夫。

【研究内容2】(2年次)

共に高め合う子を育成するために

①子どもが自分の考えを出し合い練り合う授業作り

自分なりの考えを表現し、互いの考えのよさを参考にして練り合い、さらに自分の考えを広げたり深めたりする授業展開の工夫。

②多様な考えが飛び交う授業作り

子どもの多様な考えを引き出す発問を工夫し、必要な既習の知識や技能を想起できる場の設定。

